

旅人は新しい風を運び、異文化をつなぐ

小さい頃から、母に連れられて世界のあちこちを渡り歩き、暮らした国は7か国。そのせいか、僕は旅が大好きです。

いま、僕は「旅人」として、各地の日本遺産をたずね歩いています。歴史的な建物や風景を舞台として、伝統芸能と地元の芸能とが競演される場です。行く先々で、地元の方に僕がわからないことを尋ねると、みんな心を開いて親切に教えてくれます。旅では、新しいことを知ったり、逆にこちらから新しい風を運んだりして、お互いの興味や知識がどんどん膨らんでいくのが楽しいんです。

僕は、あるテレビ番組の企画がきっかけで、狂言に出会いました。伝統芸能なんて難しそうだと構えていましたが、やってみるといろんな発見があって、600年以上前から人間の愛すべきダメなところは変わらず、それを笑いに変えて楽しむ感覚が同じなんだということに驚きました。

狂言を続けることで、自分の中に一つ軸ができ、他の文化をより深く理解できるようになって、旅がますます楽しくなりました。

みんな、スマホばかりを見てないで、美しい景観やさまざまな芸に直接触れようよ。自分の五感を使って、知らない世界と出会い、感じる旅はすごく楽しいから！ Let's Come on!!

セイン・カミュ (タレント)

「ニッポンたからものプロジェクト ー日本遺産×LiveArtー」

全国の“たからもの”をめぐる旅 2018年度公演がスタート

2018年8月28日(火) 18:00開演

会場=大山阿夫利神社社務局

能楽殿(神奈川県伊勢原市)

主催=文化庁、芸団協

共催=伊勢原市日本遺産協議会、大山阿夫利神社

広報協力=近畿日本ツーリストコーポレートビジネス

協力=共同通信社、日本劇作家協会、

長唄協会、日本舞踊協会、

大山能楽社保存会、小田急電鉄

未知の世界への

期待感があふれる“旅人”の表情



上空から捉えた大山阿夫利神社

大山は別名「あめふり山」と呼ばれ、古くから雨乞い信仰の中心地として親しまれてきたそう。都心は朝から快晴だったこの日も、大山の上だけは雲がかかり、霊山たる風格が漂っていた。この山を参拝する「大山詣り」が、伊勢原市が誇る地域のストーリー・日本遺産である。

2017年度から、文化庁と芸団協とが主催する「ニッポンたからものプロジェクト ー日本遺

産×LiveArtー」は、実演芸術の魅力を活かして、日本遺産に認定された地域のストーリーを再発見していく事業だ。

秋季例大祭であるこの日は、大山名物の豆腐や地ビールなどの出店が並び、神輿の準備が粛々と進められるなか開演。旅人(進行)役を務めたセイン・カミュ氏は、実際に参拝ハイキングを体験して臨んだ。公演での目黒久仁彦

霊山の特別な“気”に満ちた
能楽殿で縦横に舞う



氏(大山阿夫利神社 権禰宜)、廣田勇介氏(山岳お遍路)とのトークでは、自ら歩いて感じた魅力を織り交ぜながら話が弾んだ。地域の人たちによる倭舞と、能・狂言の奉納、そしてプロの日本舞踊・長唄の上演には、延べ約500人の観客から大きな拍手が沸いた。その後の神輿渡御には観客からも担ぎ手として参加する人も出て、盛り上がりは最高潮に。まさに地域と一

体となって終演を迎えた。

その場に行かないと体感できないという点で、旅と芸能は親和性が高い。しかし、実際に行くことが難しい人たちにも楽しんでもらいたい。本事業では、ウェブサイトで動画などの公演記録も公開している。全国のユニークなたからものを、たくさん見つけてほしい。

<http://www.takaramono-pj.jp/>



元はレンガ色だった校舎



オープン時には
全室の壁に耐震補強を施した



10周年の改修で白色に変身



特別見学会には多地域から計40名が来舎した



元保健室はみんなの憩いのスペースに

今、ふたたび注目が集まる廃校活用

～廃校サミット2018より

地方創生の一助とすべく、全国の廃校活用の活性化をねらって、政府広報による「廃校サミット2018」が8月に開催された。全国から廃校を抱える自治体、活用に関心を持つ企業などが集まった。この一環として、都内の活用事例の「特別見学会」が実施され、芸能花伝舎でも視察の受け入れを行った。多様な関心をもつ方々が訪れる貴重な機会であったと同時に、我々にとってもあらた

めてオープンまでの経緯を振り返る好機となった。

1997年3月、子どもたちの学び舎としての役目を終えた新宿区立淀橋第三小学校。81年分の子どもたちの思い出を背負った元小学校は、2005年に芸能花伝舎として生まれ変わった。文化事業に力を入れる新宿区と、「実演芸術が豊かな社会をつくる」という理念を具体化するための場を求めていた芸団協のニーズが共

鳴し、実現したものだ。

この十数年のなかで、一番に力を注いできたのは、地域との関係をどうつくるか。2005年から毎年5月5日に開催している「芸術体験ひろば」をはじめ、芸団協や花伝舎入居団体の主催イベントでの、地元の町会・商店会との協働。新宿区や東京都が主催する文化事業の実践。地域の理解なしには企画、実現、継続できな

かったらう多くの事業がある。

花伝舎の“実演芸術の創造、交流、発信の場”という理念は変わらない。地域の財産である元学校という場所が、新たなコミュニティ形成の場となるよう、これからも心を尽くしていく。

〈政府広報〉廃校サミット2018
日時＝2018年8月8日(水)、9日(木)
<https://www.gov-online.go.jp/cam/haikou2018/>

歌丸師匠との思い出話には大盛り上がり



歌丸師匠のさまざまな表情
写真からも人間性が見える



たくさんのお店が並ぶのも
楽しみのひとつ



落語の新しい楽しみ方にも挑戦
(落語インターナショナル)



橘さつきさんのお手本を参加者も食い入るように見る

バトンを引き継いで、新しい一歩を踏み出す

第12回芸協らくごまつり

2018年9月30日(日) 10:00~15:30

会場=芸能花伝舎

主催=芸協らくごまつり実行委員会、公益社団法人落語芸術協会(芸協)

花伝舎オープン以来、入居団体として共に歴史を歩んできた芸協が、体感型ふれあいファン感謝デー「第12回芸協らくごまつり」を開催した。実行委員長の桂米福さんは「ファンと近づこうという趣旨から、芸人主体のイベントにしている。落語だけでなく、マジックや演芸なども含めて芸人が集まるのも他にない特徴。」と話す。会場内でサインに応じる芸人たちは、高座とは違う顔で親しみやすく、ファンとの距離もぐっと縮まる。

元小学校だった花伝舎の特徴を活かし、校庭には地元町会らが屋台を連ね、校舎内では体験教室を実施。寄席文字体験を覗くと、橘右橘さんと共に弟子の橘さつきさんが、熱心にお手本を見せていた。彼女は、らくごまつりでの体験をきっかけにファンからプロへ転じ、今回は魅力を伝える側として参加した。

2007年にスタートして第12回となる今回は、芸人にも参加者にとっても特別な意味がある。第1回から芸協会長としてまつりを支えてきた、故・桂歌丸さんを偲ぶこと。生前の写真や衣装等を展示した「歌丸ミュージアム」のほか、献花台にも多くの花が寄せられた。

「追悼・桂歌丸を偲ぶ～一門トーク～」では、歌丸さんの弟子(歌春、歌助、歌若、枝太郎)と三遊亭円楽さんが思い出を語った。円楽さんは「芸に対して本当に真摯なお師匠さんだった。自分達ももっと芸を磨いていかなければ。」と活をいれながら、「落語界の風通しを良くして落語の魅力伝える一助になればという気持ち。恩返しでもあり一つの夢。」と話した。

第13回は2019年5月26日に予定されている。らくごまつりは様々な思いのバトンを引き継ぐ場所だ。また新たな歴史を重ねていく彼らの姿は、エネルギーに満ちていた。

文化庁より表彰

創立50周年を迎えた文化庁より、個人として野村会長が、団体として芸団協が記念表彰を受けました。野村会長は、能楽師としての活躍とあわせて「芸団協会長を務めるなど、我が国の芸術文化の振興に」、芸団協は「実演芸術の振興を図る事業及び調査研究等を通じ、我が国の文化芸術の振興に」、それぞれ多大な貢献をしてきたことが認められたもの。表彰を受けたのは個人108、団体52。

【花伝舎カレンダー】 芸能花伝舎を拠点に展開している事業いろいろ

キッズ伝統芸能体験 発表会

数ヶ月にわたりお稽古を重ねた子どもたちの発表と、講師陣による実演。観覧無料・要事前申込み。

12/23(日・祝)

16:00~17:00 日本舞踊

会場:国立劇場 小劇場

12/24(月・休)

11:00~12:10 三曲

13:30~14:50 長唄(第1部)

16:00~17:20 長唄(第2部)

会場:国立劇場 小劇場

12/24(月・休)

13:00~17:30 狂言、謡・仕舞

会場:宝生能楽堂



<http://www.geidankyo.or.jp/kids-dento/>

こども芸能体験ひろばin新宿

日本舞踊、狂言、落語、和妻、三味線から好きなジャンルを選ぶ体験ワークショップ。全国で活躍中の各界のプロによる直接指導。

11/23(月・休) 会場:芸能花伝舎



<https://www.geidankyo.or.jp/12kaden/>

ご支援のお願い

より良い稽古環境と子どもたちに良質の芸能体験を提供し続けること。この二つは、芸能花伝舎の運営に携わる私たちの願いです。将来にわたって持続するためには、皆様のご支援が必要です。是非、ご寄付をお願いいたします。www.geidankyo.or.jp/support/

公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会

● 東京オペラシティ事務所
〒163-1466 東京都新宿区西新宿3-20-2
東京オペラシティタワー11階
Tel:03-5353-6600 Fax:03-5353-6614

● 芸能花伝舎事務所
〒160-8374 東京都新宿区西新宿6-12-30
Tel:03-5909-3060 Fax:03-5909-3061